





可動橋勝鬨橋の工事現況

本橋は隅田川河口に位し、東京港修築事業の一部として計畫せられ、東京港の水陸連絡月島其他港内埋立地の開發等の使命を帯ぶる重要橋梁で、橋長246m、有効幅員22m、此内中央徑間44mはシカゴ型2葉跳開橋、兩側徑間各86mは solid rib tied arch である。

中央徑間の44mは大體パナマ運河の幅員を標準にしたもので、凡そ1,500噸位の船舶が自由に行交ふ事が出来、1隻ならば3,000噸乃至5,000噸級の船舶通航に差支えない廣さである。尤も本橋上流に在る石川島造船所の建造船並に上流繫泊船の將來を考へても精々2乃至3,000噸級船舶の通過を見るに過ぎまいと豫想されてゐる。

可動葉は最大毎平方米に付50kgの風壓に耐へ、開閉の所要時間は各1分10秒であるが最小運轉時間(開いて再び閉ぢるまで)は約6分間である。可動葉

は自重約800噸で橋脚内に各1,100噸のカウンター・ウェイトが裝備され、70度の角度まで開閉するのに片側各250馬力を要する。而して2葉を同時に又片葉のみでも自由に運轉し得るやうになつてゐる。工事は之を四期に分け、第一期工事として地質調査其他準備作業及橋臺護岸等を昭和7年2月11日に着手して以來、第二期工事として兩橋脚(塔を除く)築造、月島側側徑間架設、前後取付道路一部を施工し、現在第三期工事たる中央徑間、橋脚の完成、運轉設備等を進めつゝあり、築地側側徑間の架設、橋臺前後取付道路の完成等は第四期工事として昭和14年6月30日迄に竣工の豫定である。以上に要する工費の總額は凡そ3,570,000圓と豫定されてゐる。

寫眞は出来上つた月島側側徑間と工事中の中央徑間を月島側下流より撮影したものの。